

神戸地区 コミュニティ計画

平成22年3月



かんど地域づくり協議会

目 次

1	コミュニティ計画の策定にあたって	1
2	神戸地区の現状	2
	世帯数及び人口	2
	年齢別に見る人口	2
	集落別人口分布	3
3	地域の課題	4
	アンケートから見た地域の課題	4
4	神戸地区コミュニティ計画	6
	I 活力のある地域づくりをめざして	6
	若者の定住促進について	6
	地場産業としての農林業を考える	6
	交流による地域の賑わいづくり	7
	II 安心安全な地域づくりをめざして	8
	災害対策について	8
	河川の整備について	9
	交通事故の防止について	9
	防犯体制について	10
	III みんなで支えあう福祉の地域づくりをめざして	10
	高齢者支援について	10
	地域ぐるみの健康づくりについて	12
	IV 生活環境の整備について	12
	道路の整備について	12
	バスの利便性向上について	12
	V 明日を担う人づくりをめざして	13
	生涯学習の推進について	13
	小学校の存続について	13
	保育園の存続について	15
	青少年の健全育成について	16
	子育て支援について	17
	公民館の新築について	17
	郷土の伝統芸能の継承について	17
	人権が尊重される地域づくりについて	18
	VI 美しいふるさとづくりをめざして	19
	さくら山の整備について	19
	地域の美化運動について	20

1 コミュニティ計画の策定にあたって

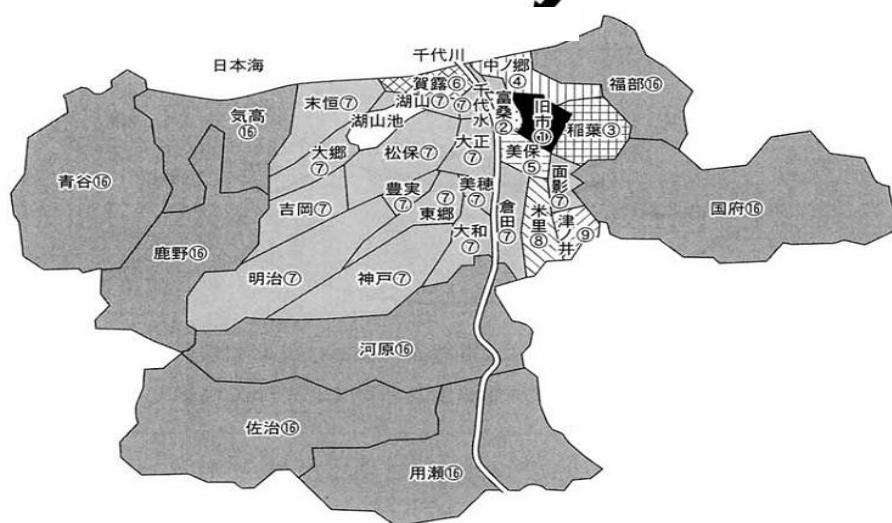
かんど地域づくり協議会会長 田村儀一

平成21年3月末、難産の末“かんど地域づくり協議会”をようやく立ち上げる事ができました。協議会のメンバーは、各集落の区長をはじめ各種団体の長を中心に30名で構成されておりますが、会を始動させるにあたって何から始めるかを検討した結果、まず地区の総意を知ることが大切とのことから、6月に地域課題のアンケートを実施しました。結果は表のとおりですが、若者の定住促進、学校・保育園の存続問題、高齢者の支援、バスの利便性、道路整備、等々当面する諸問題が上位を占めています。地域で解決するにはあまりにも大きな課題ばかりですが、これらの課題に取り組む端緒となることを期待して、この冊子にまとめてみました。皆様のご意見をお待ちしております。

- I 活力のある地域づくりをめざして
- II 安心・安全な地域づくりをめざして
- III みんなで支えあう福祉の地域づくりをめざして
- IV 生活環境の整備をめざして
- V 明日を担う人づくりをめざして
- VI 美しいふるさとづくりをめざして

神戸は鳥取市の中心・・・？

鳥取市のはずれであった神戸地区ですが、平成の大合併により地図上では大鳥取市の中心となりました。



2 神戸地区の現状

世帯数及び人口

神戸地区の人口は 936 人、戸数 249 戸、世帯数 289 世帯(21.6.30 現在)となっています。昭和 28 年の鳥取市との合併当時の神戸村の人口が、2,054 人・360 戸であったことを思うと改めてその変遷ぶりに驚きます。

年齢別に見る人口

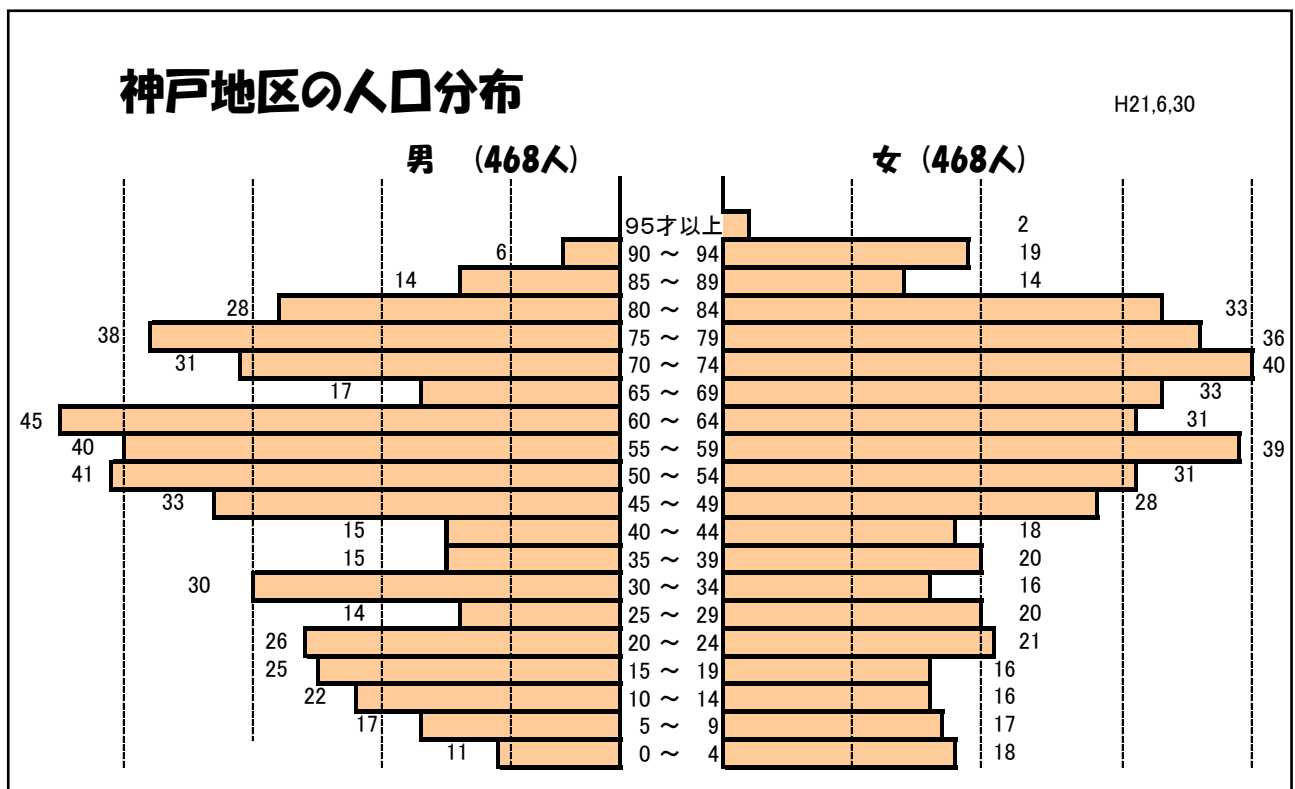
神戸地区の人口を年齢別にみると、I 表のとおりとなります。

60 才～70 才をピークとした提灯型の人口分布は、少子化・高齢化を如実に物語るものであり、地域の課題のアンケートで上位を占めた各項目は、本表に見える現実を反映したものと言えます。

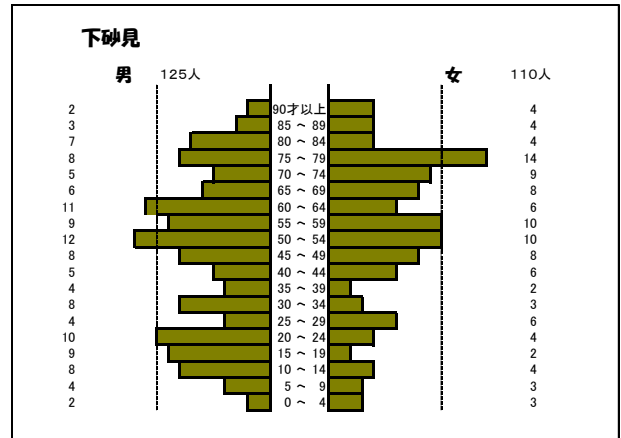
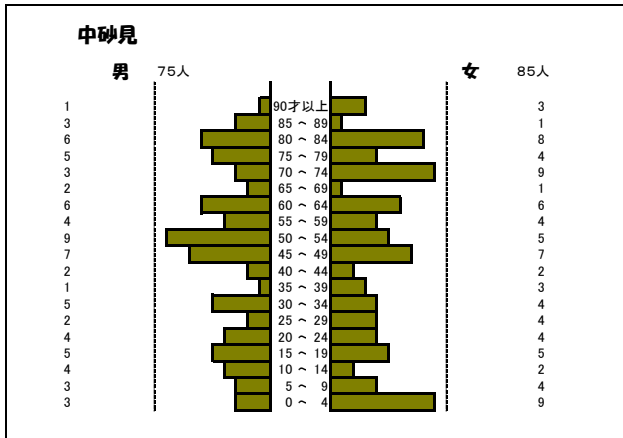
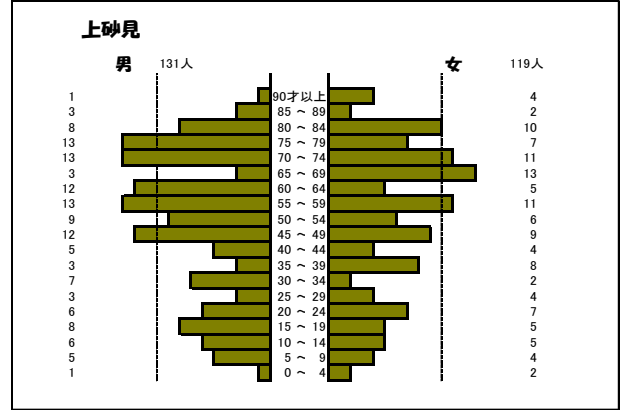
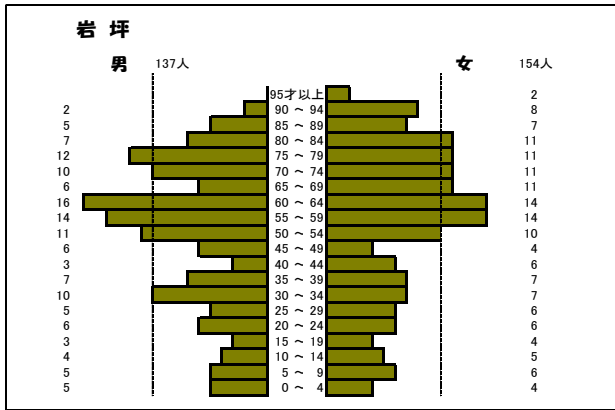
II 表は集落別にみた年齢分布ですが、グラフは集落により若干の差が見うけられます。

III 表は神戸地区の人口の推移です。 右肩下がりの過疎化現象が確認できます。

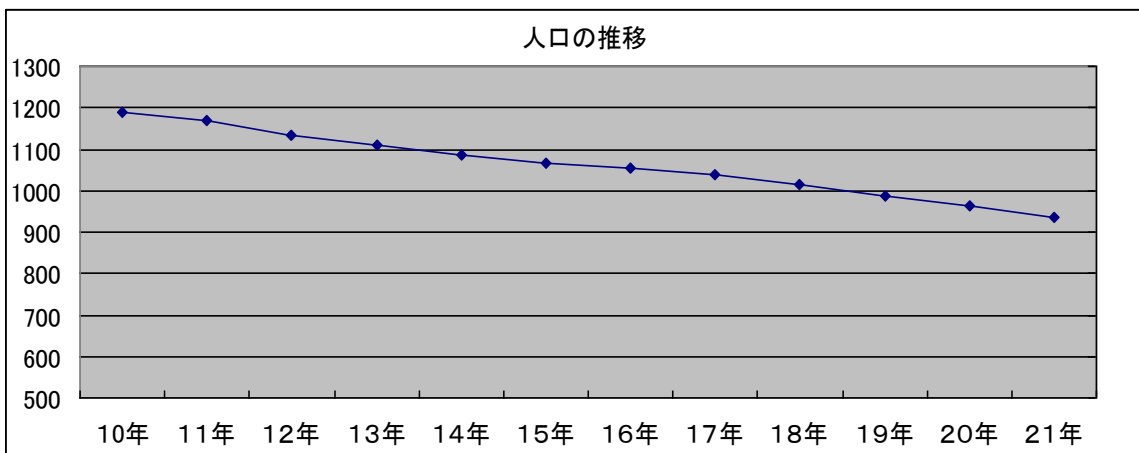
I 表



Ⅱ 表 : 集落別年齢別人口分布表



Ⅲ 表 : 神戸地区の人口の推移



アンケートについて

実 施：21年6月

対 象：神戸地区に住む人（一世帯1名以上：世帯数・289）

回答内訳：下表のとおり

		有効回答								301			
年代	回答数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	男	女	
		1	13	23	48	71	72	73	0	0	149	148	
											不明	4	
											計	301	

方 法

- ・アンケートはあらかじめ地域の課題として挙げられた15項目から、重要と思われるものを1位から5位まで選択していただきました。
また、別紙による自由記載欄に、その他の項目や想いを記載していただきました。

表の見方

- ・バスの利便性向上が1番の課題と考える人が50名、1番は他の項目であるが2番目に重要と考える人が26名、以下3番目 13人、4番目 19名、5番目16人であり5本の指に入る重要な課題と考える人が124名ということになります。
- ・地域の課題としては、アンケートに記入された主な項目をとりあげました。

4 神戸地区コミュニティ計画

1 活力のある地域づくりをめざして

神戸地区に元気を取り戻さなくてはなりません！

去る3月7日、神戸公民館において平成21年度の“神戸を語る会が”開催されました。今回で、14回を数えるこの会は、ふるさと神戸のあるべき姿を考える会として開催されるものであり、これまでも知事を始め、各界の著名人の講演や、地域の牽引者として活躍している人の実践を披露していただいています。

今回は、「桃の話あれこれ」と題して、JA せんだい支店桃生産部副部長坂本道之氏の講演のあと、神戸小学校の生徒による地域の研究発表があり、県東部総合事務所の3名の方から情報提供として「農村活性化への取り組み」の話を聞きました。

このような取り組みを継続・発展し、過疎化にも、少子化にも、高齢化にも負けぬ活力のある神戸を目指して、今何ができるかを考えなければなりません。

協議会では、皆様からの**地域づくりのための提言**を募集します。

若者の定住促進について

アンケートによる地域課題のトップは、若者の定住促進であり、少子・高齢・過疎等々の問題は、すべてこれに起因すると言えます。ただ、これは神戸地区だけでなく市、県、あるいは全国的にも共通する課題です。

現状と課題

神戸地区の年代別人口分布は、I表のとおりであり、45才未満の人口減少を顕著に示しています。若者の流出の最大の要因としては

まず、高校・大学を卒業しても就職先がないこと。が挙げられます。

また、核家族化が進み、結婚し地区外に居住する例も見受けられます。

今後の方針

- ・ 最重要課題ではありますが、上記2例についての対策は極めて難かしく、これと言った決め手はありません。特に、雇用の創出については、本協議会で手の施しようもなく、今、神戸で出来ることとして、**住みやすい神戸、住みたくなる神戸** にするために、何が出来るかを検討するにとどまります。

地場産業としての農林業を考える

- * 農地・林地の保全

現状と課題

- ・ 経済環境の変化に伴う過疎化や、農林業に従事する人の高齢化により、これまで先人たちが営々として築いてきた、ふるさとの農地や山林の荒廃が進んでいます。

私たちは、これら貴重な財産を次世代に引き継いでいくための方策を考えなければなりません。神戸地区における現状や課題について話し合い、農地、山林の維持、保全を目指していかなければなりません。

今後の方針

- ・ 耕作放棄地対策を集落単位で考える
- ・ 集団営農体制の検討
- ・ 農地水環境保全対策事業に取り組む
- ・ 林道整備の促進

* 神戸の特産品づくりについて

現状と課題

神戸地区では、果樹の産地として、桃・柿・梨・梅などの栽培が盛んに行なわれてきました。また、山林に恵まれていることから、椎茸の栽培も大規模に行なわれています。しかし、生産者の高齢化によりこれらの特産品も衰退の恐れがあります。

今後の方針

- ・ 後継者の育成、生産維持のための方策について検討をする
- ・ 地区外の人にもオーナーとして関与して貰えるような仕組みを検討する

交流による地域の賑わいづくり

— 神戸もも祭り —



現状と課題

地域の活性化を目指して毎年開催される“神戸もも祭り”は回を重ね、昨年で11回となりました。今では、1000人を超える多くの人に来て頂く、神戸最大のイベントとして定着しましたが、これは単に神戸の桃の宣伝ではなく地区外の多くの人に神戸を知って貰う絶好の機会でもあり、ぜひ継続し、かつ発展させたいものです。他地区との交流としては、“賀露地区との交流”等がありますが、いずれも会場や受入体制については、物理的にも限界があり、隘路あいろとなっています。

今後の方針

- ・ 沢山の人に来て、見て、食べて貰い、神戸を知って貰うための交流です。地域のイベントとして、地域を挙げての協力体制を構築します。

II 安心・安全な地域づくりをめざして

災害対策について

現状と課題

神戸地区では、近年地震・台風等自然災害による人的被害は幸いにして、発生していません。しかし、異常気象による集中豪雨等の被害は毎年各地で発生しており、災害に対する備えは常に必要です。毎年集落単位で防災訓練を実施しているところですが、万一に備え一層の充実が求められます。

- 防災訓練 -



今後の方針

災害の発生を想定した場合、神戸地区は距離的に県・市等の救援に時間がかかることが想定されます。初期対応として地域でできることの再点検が必要です。

予想される自然災害としては、地震・台風による風水害・急傾斜の土砂崩れ、など

が考えられます。また、火災の備えも必要です。あらゆる災害に備えて

- ・ 防災訓練の継続実施
- ・ 連絡・情報網の確認
- ・ 各集落の避難場所等の周知徹底
- ・ 各集落における支援体制の充実強化
(避難誘導、安否確認、声かけ活動等)
- ・ 炊き出し等の訓練
- ・ 防災機器の整備
- ・ 各集落への AED の配置及び使用方法の周知・応急処置の研修

災害にあたっては、まず、自分の身を守らなければなりません。昼間の火災においては、地区消防団員が仕事のため間に合わないこともあります。イザというとき慌てないように、訓練には積極的に参加し、誰でも消火栓操作ができるようにしなければなりません。

また、日常、家庭でも災害時にそなえて

- ・ 気象情報、防災無線などによる情報の収集
- ・ 居住地付近の日頃からの状況把握
- ・ 避難場所の確認
- ・ 消火器・火災警報器の設置

などが必要です。

河川の整備について

現状と課題

昭和34年の伊勢湾台風では、砂見川の増水により道路や田畑に多くの被害がありました。その後、護岸も整備されて大きな被害はありませんが、近年は水面が見えないほど葦(アシ)が茂っている光景を目にします。また護岸についても、一部崩壊の兆しが見えるところもあります。アンケートはこれらの事象を心配するものとなっています。

今後の方針

アンケートの自由記載欄にも、護岸整備は当然として水害に備えて、また景観上からも河川の葦の除去が必要という意見が見受けられました。集落排水事業も進み、河川の富栄養化が改善されることにより、繁茂が抑制されることも期待されますが、今後、行政とも相談し協働して除去に取り組む必要があります。

交通事故の防止について

現状と課題

神戸地区内では今のところ大事故は発生していません。しかし、事故は度々発生しており、みんなの身近な問題です。道路改良、冬場の積雪・凍結対策、信号機設置な

どの環境整備も急がれますが、逆に道路の拡幅改良がされた箇所では、スピードの出し過ぎ等による大事故の発生も心配されるところです。

全住民を対象とした交通安全意識の高揚が求められます。

今後の方針

- ・ 道路狭隘箇所の改良
- ・ 神戸入口の信号機の設置
- ・ 高齢者・子どもを対象とした交通安全教室の開催
- ・ 交通安全意識の啓発・交通指導

防犯体制について

現状と課題

各地で振り込め詐欺など、高齢者を狙った犯罪が多発しています。また、子どもを対象とした犯罪も後を絶ちません。昼間人口の少ない神戸地区に於いてはこれらの被害に遭わないための対策が必要です。

今後の方針

- ・ 高齢者を対象とした振り込め詐欺等の被害防止のための研修実施
- ・ 防犯パトロール及び通学時の見守りの継続
- ・ インターネット等の犯罪被害者とならないための研修の実施

Ⅲ みんなで支えあう福祉の地域づくりをめざして

高齢者支援について

現状と課題

高齢者は、多年にわたり社会の進展に寄与された方であり、また豊富な知識と経験を有する方として、敬愛するとともに、生きがいと安らかな生活が保障されなければなりません。

神戸地区では、高齢者世帯数38戸、そのうち一人暮らしの世帯が12戸となっています。高齢化率は33%と高く、この傾向は年を追って更に進むものと考えられます。誰もが高齢者となるのです。現在、愛の訪問協力員、となり組福祉員による見守りやボランティアによる月1回の食事サービスの提供などが行われていますが、地域ぐるみで高齢者を見守る体制づくりが必要です。

地区の特色として、10キロに及ぶ細長い地形のため、公民館等での催し物（敬老会、住民サービス）等にも参加しづらいこともあり、これらの参加率も低下の傾向にあります。高齢者にも地域の一員として、諸行事や催し物に積極的に参加し地域と関わっていただきたいものです。アンケート上位に後述のバスの利便性の向上が挙げら

れていますが、交通弱者にも参加しやすくなる工夫が必要です。

※※ 神戸地区の高齢化率は、33%と高く、鳥取市のそれを11ポイント超え、高齢化のスピードは約20年先行しています。こうした高齢化先進地域にとって、高年クラブの担う役割は大きくなっています。高齢者は、加齢に伴う心身の変化を自覚し、常に心身の健康を保ち医療予防・介護予防に心がけるとともに、その知識と経験を活用して地域に貢献することが望まれます。現在、神戸地区の高年クラブの加入率は73%(市：27%)となっていますが、加齢に伴う病弱者もあり、他方、健康者は、後継者不在等で農業専従に加えて地域の世話役も背負うなど、多忙化が進んでいます。このため、名ばかり会員(非活動会員)も増加傾向にあり活力低下要因となっています。交通の便のこともあり今後の課題ですが、バスの利便性向上や、マイカーの同乗声かけ運動などの心遣いが望まれます。

－高年クラブより－

今後の方針

- ・ 集落区長・社協・民協・各種団体との連携を図り集落ごとに高齢者を見守る組織・風土をつくる
- ・ 世代を超えた交流の場をつくる
- ・ 諸行事等については、送迎の工夫をし、参加しやすい環境をつくる
- ・ 高年クラブ等の支援をする
- ・ 高齢者の居場所づくりをする

居場所として～多鯨工房のこと～

岩坪では古くから紙漉きと併せて木炭製造が行われ、昭和31年ごろまでは年間2,300俵の白炭を生産した実績がありますが、その後、長く中断していました。平成12年の秋、再開の声が上がり、13名の有志で黒炭窯“多鯨工房”を構築しました。作業日は原則として、農閑期の日曜日とし、自由参加とすること、趣味の会的に行うことを基本としています。趣味的な活動であるため、収益は年数回の慰労会の経費程度しかありませんが、和気藹藹とした仲良しグループです。私も発足当初から、気晴らしの場として、また、生活の知恵を学ぶ場として参加してきましたが、還暦を過ぎ職場の第一線を退いた現在は、第二の人生における居場所の一つとして、活動日以外にも立ち寄ることが徐々に多くなってきました。10年が経過し、会員は60歳～80歳と高齢化していますが、平日も三々五々集まっては、火を囲み、話し、楽しんでいきます。興味をお持ちの方はお立ち寄りください。

岩坪 M・H

地域ぐるみの健康づくりについて

現状と課題

自然環境に恵まれた神戸地区ではありますが、高齢化社会を迎え、心身の健康の維持が、益々大切となります。体育会を中心とした各種スポーツでは、市民体育祭に参加し、卓球・バレー・バスケット等の総合成績で、Cブロック14チーム中6位の成績を収めています。そのほか、ゲートボール、グランドゴルフ等も盛んに行われていますがこれらの継続発展、あるいは、ニュースポーツの普及など、誰でもできる健康づくりを考えます。

今後の方針

- ・ 各種スポーツの普及
- ・ 健康講座の開設・・・医師、保健師を講師とした心身の健康講座
- ・ 腰痛体操、3B体操、しゃんしゃん体操、etc・・・健康体操講座の開設
- ・ 健康ウォーキング等誰でも出来る運動の普及

IV 生活環境の整備について

道路の整備について

現状と課題

通勤・通学・通院・買い物等、生活の大動脈である神戸の道路整備は、永年に亘る地域の願望であり、繰り返し陳情を重ねてきた経緯があります。アンケートにも多くの人が地域の重要課題として答えています。

市街地からの距離の短縮はできませんが、道路の改良により、時間の短縮は可能です。安全の観点からも、信号機の設置・狭隘部分の拡幅・外灯やガードレールの設置等整備が急がれるところです。

今後の方針

- ・ 地域一丸となって、引き続き関係各所への働きかけが必要です。
皆さんのご協力をお願いします。

バスの利便性向上について

現状と課題

昨年4月にバスの便が減少されました。運行時間についても変更があり、多くの皆さんの声をうけて、地域づくり協議会・区長会等でバス会社や市当局にも陳情しました。減便については、利用者数の減少のためやむを得ないとの回答でしたが、運行

時間については一部改善していただきました。

益々高齢化が進む中で、唯一の公共交通機関として、交通弱者のために引き続きその利便性の向上を図ることが必要です。

今後の方針

- ・ 利用者が少なくなる。⇒減便等利便性が悪くなる。⇒更に利用者が少なくなる。この繰り返しであっては、展望は見えません。高齢者等に対して運賃の補助制度もでき、更なる補助制度も検討されています。

乗って残そう神戸線。 . . . 時にはバスもいいものですよ。

V 明日を担う人づくりをめざして

生涯学習の推進について

現状と課題

公民館主催で文化講座等を開催していますが、参加人員が少なく、盛り上がりに欠ける現状にあります。また、公民館を拠点として、各種サークルや同好会等が活動する場合も、人口が少ないことや、地理的に自動車が必要となることもあり、同好者が集うにも不便は否めません。また、地区外から講師等を招聘するにも、距離的に、あるいは冬期は積雪などもあり難しくなります。

しかし、充実した人生を送るためにも生涯学習は欠かせません。

今後の方針

- ・ 各集落を対象として、出張公民館文化講座等の開催を検討する
- ・ 交通手段がなく講座等に参加しにくい人の便宜を図る
- ・ 講座等の開催時期を検討する
- ・ 講座・サークル等の成果を発表する場を作る

小学校の存続について

神戸小学校は、昨年、創立100周年を迎えました。この日に向けて、学校と保護者地域の皆さんが力をあわせ、学校の環境整備や式典の準備を行いました。

おかげさまで、大変すばらしい式典とすることができました。

- 創立 100 周年記念事業 -



現状と課題

アンケートでも、小学校の存続に対する不安が多く挙げられています。神戸小学校には、現在38名の生徒が通っていますが、少子化の傾向は変わらず、ここ数年は35～36人程度で推移するものと考えられます。小規模校特別転入制度の対象校として指定され、これにより、現在1名が通学しているものの、多くは期待できない現状にあります。地域内に小学校がなくなることは、地域の過疎化の決定的な決め手となり、即地区の衰退につながります。



大人数の中で切磋琢磨し成長するという面では小規模校は不利であることは否めません。しかし、神戸の子どもは、少人数の利点を生かし穏やかで優しく素直に育っています。神戸小学校100周年記念行事や、神戸を語る会の発表をみて、多くの人が感動しました。

神戸を愛し、誇りを持ち、志を持つ子になってほしいと願います。

今後の方針

- ・ 神戸を愛し誇りに思う子どもを育てていくためには、地域と学校が連携し地域ぐるみで子育てする体制作りが必要です。地域の人材を登録し、ふるさと教育をします。
- ・ 学校の存続については、少数切り捨てにならないように、地域の熱意で取り組まなければなりません。

私は、神戸の桃もそこそこ名が売れたのだから、**桃祭り**はもう止めてもいいんじゃないか。・・・と内心思っていたんです。ところが、小学校の校長先生の、話を聞いて認識が変わりました。校長先生は、“折角多くの人に来て頂くのだから、ぜひ子どもたちを桃祭りに参加させてほしい”と言われます。神戸の子どもたちはとても純真で、素直ですが、どうしても引っ込み思案になりがちということです。修学旅行で、都会の大きなビルや、たくさんの人を見て、ガイドさんが感激するほど歓声をあげて喜ぶということです。校長先生はこんな子どもたちにもっといろいろなものを見せたり、体験させたい。また、多くの人に接する機会を作りたいと言われます。桃祭りの参加は、そうした観点からのものです。画像にありましたように、3年前から子どもたちも全員参加し、カブトムシや学校園で採れた野菜、先生方の手による木製のプランターなどを販売しています。そして、その収益をもとに1年目は、やまびこ館や博物館・真教寺公園等の市内探索、2年目は出会いの森、ジャスコ北店を見学しました。このような先生方の熱意に押されて、今年神戸の教育後援会からの援助もあり、10月7日に、境港に行ってきました。先月の22日の学習発表会では**桃祭りに感謝！神戸っこわくわく探検活動報告**と題して、北栄町の名探偵コナン博物館の話や、米子駅から自分で切符を買ってJRで境港に行ったこと、きたろうロードの体験などを発表してくれました。保護者はもとより、みんな大変感動しました。

－20.12.7：公民館事例発表・学舎連携の取組について：から－

※21年は教育後援会の援助により、劇団四季の鑑賞、神戸港クルージング等の体験をしました。



保育園の存続について

現状と課題

保育園についても小学校と同様のことが言えます。神戸保育園は、現在10名の園児が通園していますが、22年度は5～6名になる見込みです。23年以降は若干増となると推測されるものの、このような背景により、地域の多くの人々が、その存続について心配をしているところです。神戸保育園は鳥取福祉会が市から指定管理を受け運営していますが、保育時間は、9時から16時となっています。そのため、この時間に送迎が出来ない家庭については、保護者の職場に近い保育園や幼稚園に入園せざるを得ない実情もあります。保育園についても廃園となれば、小学校と同じく地域の衰退につながるようになります。

今後の方針

- ・ 保育時間の延長や、乳幼児の預け入れの要望もありますが、絶対的な該当年齢者数が少ないこともあり、実現していません。小学校と同様、地域の声を集約して地域の熱意を当局に伝えなければなりません。併せて、保護者数が極めて少ないことを考えれば地域の一層の応援が必要です。

※ 神戸地区における学校・保育園の応援団

☆ 教育後援会

今から50年前、神戸小学校の創立50周年を機に、神戸の教育振興に寄与することを目的として設立された会です。会員の寄付を基金として活動することとし、会員は地区内外を問わず、現在183名を擁し、毎年、小学校・保育園へ補助をしています。

※ 新規会員を募集しています。趣旨にご賛同の方は公民館までご連絡ください。

☆ めだかの会

平成15年に発足したボランティアグループで、公民館活動・子育ての支援を目的とする会です。小学生を対象とした“稲作体験”では、田植え、草取り、稲刈り、脱穀の体験をします。秋の収穫感謝祭には、児童の作ったもち米を使って餅つきもしています。また、保育園、小学校の低学年を対象とした“イモ掘り体験”もしています。

会員の高齢化により、新規会員を募集しています。

※ ご賛同の方は公民館までご連絡ください。

青少年の健全育成について

現状と課題

少子化の時代となり、子どもはまさに地域の宝となりましたが、子どもたちを取り囲む環境は、必ずしも安心できるものではありません。小学生については児童数が少ないため、帰宅しても近所に遊び相手がいない場合も多々みうけられます。

中学生は、保育園の納涼祭、地区運動会などのスタッフとして協力しており、今後もぜひ継続して貰いたいものです。

子どもたちを地域で見守り、地域で育てる体制づくりが必要です。

今後の方針

- ・ 子どもの居場所対策として、放課後子ども教室の継続
- ・ 中高生についても、地域の行事・催し物等に勧誘する
- ・ 挨拶運動を促進する
- ・ 青少年健全育成のための保護者（大人）を対象とした研修会の開催

放課後子ども教室に参加して

昨年6月から、放課後子ども教室のスタッフとして参加しています。子ども教室は地域の方がスタッフとなり、協力しながら運営しています。普段、地域の子どもたちとの交流もなかなか出来ない状況ですが、子どもたちを知る良い機会になっています。週3回、公民館の2階で開催され、30分の勉強の後は、天候にあわせて、校庭・体育館へと移動して遊びます。中には公民館に残って、将棋をしたりゲームをする姿も見られます。子どもたちは楽しみにして通って来ていますので、今後は更に季節の行事なども計画していけたらと思います。 (T.A)

※ スタッフを募集中です。公民館へご連絡ください。

子育て支援について

現状と課題

アンケートにも、育児サークルが欲しいという声がありました。子育ての不安を解消するため、地域の子育て応援団として妊娠中から地域でサポートができるような体制作りが必要です。

保育園では、3歳未満児の保育ができませんので、入園までの乳幼児の相談窓口がほしいという声もあります。少ない子どもが7集落に点在するため、若いお母さん同士が話しあう機会もないのが現状です。

今後の方針

- ・ 地区全体で子どもや、その保護者が気楽に話し・相談し・遊ぶ場としての育児サークルの立ち上げをはかる。
- ・ 妊婦・3歳未満児の相談窓口を設置する。

公民館の新築について

現状と課題

生涯学習あるいは地域の文化の拠点としての公民館ですが、老朽化が著しく、各所修理をしているところです。しかし、バリアフリーと言われる時代、使いやすい公民館に新築していただきたいものです。アンケートでも、現在の構造は、“会議室が2階であり、階段の昇降が苦痛である”あるいは、“バスを降りてから公民館に至る坂道が危険である”等の声があります。

ちなみに、21年度は屋根の補修・トイレの改造工事がされていますが、22年度は更に屋根の葺き替え・事務所床の張り替え・襖、畳の張り替えが予定されています。

今後の方針

- ・ 21年8月28日、神戸地区地域づくり懇談会が開催され、市長をはじめ市の幹部の方々に来ていただきました。公民館の建て替えについては、その時にも要望しましたが、平成23年度から始まる鳥取市の第9次総合計画で検討したいとの回答でした。今のところ、いつ建築するという具体的な計画はできていませんが地元の気運を高めなお一層の運動をする必要があります。

郷土の伝統芸能の継承について

現状と課題

神戸には、獅子舞をはじめ先人から受け継いだ伝統芸能がたくさんあります。しかし少子化の影響もあって、継承が危ぶまれるものもあります。各集落の祭り等、年中行事と併せてこれらが途絶える事のないようにしなければなりません。

岩坪	・・・	獅子舞（神楽獅子）	紙すき踊り
上砂見	・・・	〃（麒麟獅子）	手笠踊り
大湯棚	・・・	〃（ 〃 ）	

今後の方針

- ・ 各集落で保存会を立ち上げ、後継者の育成を計る。
アンケートにも下砂見の獅子舞復活という声がありました。
地域の元気回復のためにも頑張りましょう。

人権が尊重される地域づくりについて

小さな神戸地区です。差別やいじめがあってはなりません。地域ぐるみで、支え合い助け合えるような体制を作ります。

現状と課題

現在神戸地区同和教育推進協議会を中心として人権教育に取り組んでいるところですが、各種研修会・小地域座談会等々の参加者は年々減少の傾向にあります。

また、時代の変化と共に様々な人権問題も発生してきます。人権問題を他人事ではなく、自分のこととして認識することが必要です。

—人権研修の参加者：21年度—

月 日	内 容	講 師	参加者
8月23日	地区研修会	おくりびと鑑賞	27名
10月17日	インターネットと人権教育	福井正樹先生	25名
12月4日	高齢者の人権が守られるまちづくり	相見槻子先生	41名

—小地域座談会集落別参加者：21年度—

集 落	岩坪	上砂見	大湯棚	中湯棚	高津	下砂見	神坂
参加者	18	15	11	6	8	14	8
戸 数	77	68	17	12	12	36	26

今後の方針

地域の高齢化に伴う高齢者の人権問題等、身近な課題をはじめ、人権課題について自由闊達に話し合い、理解し合うため、参加しやすい研修会とする。

- ・ 研修会の場所、時期、時間等の工夫
- ・ 研修内容の再検討
- ・ グループ別研修の実施
- ・ 出張研修の実施

VI 美しいふるさとづくりをめざして

さくら山の整備について

現状と課題

神戸小学校の裏手にある“さくら山”は神戸のシンボルとして小学校と地域住民が大切に守り育ててきた学校林です。

かつて、児童数も多く PTA 活動が盛んであった頃には、アスレチック遊具が保護者の手によって設置されました。また、スキーやソリを楽しむこともできました。

しかしながら、近年は、児童数や家庭数の減少に伴い、保全・整備を十分に行なうことができませんでした。このため下草は伸び、マツクイムシの被害も発生しました。そこで、2年前から小学校が「県民参加の森づくり推進事業」に応募して、さくら山の整備に取りかかり、これまでに、次のような事業を実施しています。

年度	平成20年度	平成21年度
実 施 内 容	・立ち枯れ松の伐採	・立ち枯れ松の伐採
	・シイタケ原木200本植菌	・シイタケ原木100本植菌
	・巣箱取り付け	・苗木の植樹
	・苗木の植樹	桜 30本 クヌギ 50本
	桜 3本 クヌギ50本	
	グミ 2本 柿 3本	
	ミカン 1本 栗 4本	
ユスラウメ 1本		

現在、さくら山は生活科や総合的な学習における学習の場であり、週2回「さくら山マラソン」を行なう業間運動の場でもあります。また、バードウォッチングや巣箱の取り付けも行なっており、児童の情操教育にも大きな効果をあげています。

平成21年12月15日には、小学校全児童・神戸保育園児・めだかの会・やまびこの会が一緒になって、シイタケの植菌や桜・クヌギの植樹を行い、そのあとでシイタケの収穫祭を開催しました。地域と連携してのこのような取り組みが高く評価され、平成21年度鳥取県緑化功労者として神戸小学校が表彰されることになりました。

校歌にも歌われる“さくら山”を地域で保護し、地区の憩いの場ともなるように整備を進めましょう。

今後の方針

- ・ “さくらやま整備委員会”を設け、「県民参加の森づくり推進事業」を継続する
- ・ 今後10年間を見通した整備計画を作成する。年次計画により逐次、植樹をし散策道等の整備をする

地域の美化運動について

現状と課題

自然に恵まれた神戸地区ですが、最近大型ゴミなどの不法投棄が見られ、7名の廃棄物不法投棄監視員の皆さんに、パトロールをしていただいているところです。ほかにも、時々、道路端に、空き缶やペットボトルのポイ捨てがあり、河川には風に飛ばされたと思われるビニールゴミなどがみられます。これの対策として、集落ごとに総事として、あるいは高年クラブ等により、一斉清掃を実施しています。

今後の方針

- ・ 不法投棄の粗大ゴミ等については、行政と協力して回収・撤去を計る
- ・ 一斉清掃の継続と併せ、マナー向上のため、ポイ捨て禁止の立て札の設置
- ・ 集落で行われているプランターによる花いっぱい運動を継続する

かんど地域づくり協議会メンバー一覧

区長会(各集落区長)
社会福祉協議会
民生児童委員協議会
地区公民館
人権啓発推進協議会
防犯協議会
自主防災連絡協議会
消防団
小学校
小学校 PTA
小学校母親委員会
中学校保護者会
教育後援会
保育園
保育園後援会
交通安全協会
高年クラブ
子ども会連合会
体育会
健康推進員会
村づくり会議
ふれあいセンター運営委員会
ふれあいセンター女性運営委員
鳥取市支援チーム

※会長は区長会長をあてる。

事務局は公民館に置く。